

直島町は外国人であふれていました。

直島行のフェリーに次々に若い参加者が集まりますが、中には12年ぶりの参加者もいます。合計20人が参加しました。1時間余の船旅のあと、直島庁舎へ直行。小林町長からペナントを頂き、田中副町長が庁舎前で写真に応じてくれました。徳島県境から7日間の特徴を振り返り。

まず参加者は昨年238人が152人と大きく減少し、対前年比64%となっています。医療生協や民医連は、毎日このニュースが翌朝各職場に届きます。こうして、毎日の参加者を事前に押さえて全行程参加まであと西讃関係2日間となっています。本日も西讃関係で1人増えたと言っていました。各組織は学びたいものです。

大幅に増えたのは、「一言メッセージ」で本日までに36枚になりました。その中で医療生協の26枚は県下各地から集まっていました。また「さぬき市」の市長と議長も入っていますが、去年は宇多津町の教育長だけでしたので、今後期待が持てます。

署名の新ポスターは東かがわ市・さぬき市・三木町・直島町と訪問した全自治体で貼らせていただいています。

また自治体関係の挨拶で、注目すべき変化が起こっています。それはG7広島サミットと核抑止論について、東かがわ市や三木町では「核による平和」ではなく廃絶こそ必要と、私たちと共鳴し響きあっていることです。ウクライナ問題に終始した去年の挨拶から前進している事に注目するのを感じています。そのために、草の根の声を支援する（三木町長）と言い切る首長や、粘り強くがんばることに期待するとの話もあります。残りの日数はあと半分ですが、西本あつしさんが65年前に一念発起した、「行進」の原点である原爆なくせと世界大会東京集会目指して歩いたことに学んで、多くの参加者を集めましょう。



左：直島町舎前で田中正平副町長と参加者

下：高松市内での「6・9行動」

